

大和撫子アイドル スタッフの前で...

(漫画6P)





白石紬ちゃん  
可憐で上品でおしとやかで…  
まさに大和撫子だよな…

こんな子がいつか  
誰かのモノになるなんて  
想像もしたくないぜ…



おらっ♡みんなに  
見られとるでっ♡

いやっ♡  
だめですっ♡

お前はワシのモノや！  
ナマイキ言うなや♡

おはよう  
おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう







フウ♪  
人前でハメると  
気持ちエエわ♡

んっ♡

のお袖♡

しっかし…  
やらしいオ  
水着やの♡

こ、これは  
貴方が…!!

ホレっ♡  
はよしやぶれ♡

ふんっ…♡  
ふあい…♡

口ごたえ  
すんなや♡

昨日は  
チンポ好き好き  
言うてたやろ♡

そ、それは…  
言わない…あん♡







細ちゃん…

そんな…

おはよう

おはよう

細ッ！細ッ♡  
お前は誰の  
モンや？おらッ♡

くっ♡屑田社長の  
モノですっ♡

おはよう

おはよう

おはよう

チンポはどや！  
気持ちエエか？

おはよう  
おはよう  
おはよう  
おはよう

おはよう  
おはよう  
おはよう  
おはよう

おはよう  
おはよう  
おはよう  
おはよう



ナマ中出し  
したるわッ♡  
孕めやッッ!  
おらあッ♡♡

おっほお〜♪

いつもより  
大量に出るわ〜♡

やっ♡  
社長…♡

ナニ見とんねや!  
撮影してええぞ

わ、

ズルズル

ありがとうございます!  
社長!

細ちゃん!こ…  
こっち見て!

うわあ…まんこ  
どろどろだ…♡

ホレ♡ピース  
せんかい♡

いやああッ♡



765プロの経営を助けるため、屑田社長に  
身体を捧げてしまってから2ヶ月が経ちました

今日もグラビアやイメージビデオの撮影のため  
私は屑田社長とスタジオに来ています

今日のスタッフの方は  
初めてお会いする方が多く  
失礼のないように挨拶をして  
差し入れを配ります

今日も水着での撮影です  
屑田社長が選んだ競泳用の水着での  
撮影に、またスタッフさん達の前でいたずらを  
されるのではと不安でしたが……

スタッフさん達はいつもと違い感じの  
良い優しい気な方が多く……私は少し安心しました

どちらにしてもお仕事はお仕事  
しっかりと励み、ファンの方に喜んでもらえるよう  
真摯にこなしていかなばなりません……

……そんな私の考えは屑田社長に  
あっさりとはひっくり返されました  
水着に着替えた私を見た社長は  
「おおー思った通りやらしいなあ♡  
すぐハメたるからこっちこいや♡」

と、信じられない発言をすると  
スタッフさん達の前で私の身体を  
弄り始め……戸惑う私達を意に介さず  
逸物を強引に……挿入して来たのです

今までも現場でセクハラまがいの  
行為をすることは日常茶飯事でしたが  
露骨な性行為を強要されることは  
ありませんでした

「おら見られると気持ち  
エエやろ？ほれっ♡ほれっ♡」

そう言いながら社長は楽しそうに  
私に乱暴に腰を叩きつけてきます

ああ……スタッフさん達が皆見ています  
恥ずかしくて死んでしまいたい……  
もうお嫁にはいけません……とつくに  
手遅れかもしれません……



屑田社長は私の両腕を掴むと引っ張りながら後ろから激しく私を突いてきます  
社長のお気に入り、の体位です

「こうやってお前のデカ乳をぶるんぶるん揺らしながら犯すのが最高に気持ちいいんやww」

社長は楽しそうにそう言いながら鏡の前で私を犯すのです…

今日の前に鏡はありませんその代わり、先程まで私に良くしてくださっていたスタッフの方々が居て、私を見えています

恥ずかしい…彼らの憐れむような戸惑った表情…でもその目は全て私の下品に揺れる胸に釘付けになっていました…

ああ…腰の動きが…社長の射精が近いのがわかってしまう…皆さんの見ている前で中に出す気なのだと、叩きつける腰の激しさでわかってしまう…

「褒美や♡」

社長の声と同時に私の中にあの忌まわしい液体が勢いよく流れ込んでいきます…私の声と震える身体を見て、スタッフの方が中に射精したこと気づいたのでしよう。ざわざわと小さなためぎが起きました



射精後に耳を舐めながら胸を弄ぶ…  
いつも2人きりの時にしている  
行為ですが人に見られながらだと  
こんなにも恥ずかしい…

乱暴に動く指が別の生き物の  
ように這い回ると思わず  
声を出してしまいます

社長は上機嫌で、私の胸を  
弄びながら衣装がいやらしいと  
言ってからかいます  
この衣装は社長が選んだ  
もののなのに……

まるで私が好きで  
この格好をしているように  
言われては心外です

わかってはいましたが…今度は逸物を  
しゃぶれと命令されます…

二人きりの時は必ずやらされるよう  
教育されてしまった行為ですが、  
見ている方々はそれを知っているわけが  
ありません…このような下品な姿を見せる  
なんて…きつと皆さんは私に  
失望したことでしょう…  
心が痛くて涙が出てきます

ああ…スタッフの方々が  
食い入るように私を見ています

誰かに助けて欲しい…でも  
誰も助けてくれません

当然です。弱みを握られている  
とはいえ、私自身が社長に  
従順に従ってしまっているの  
ですから…

できるなら頬を叩いて  
恨み言の一つでも言って  
やりたい…

でもできません…  
今のシアターは屑田社長の力で  
存続しているのですから…



私が社長の言いなりになれば全てが  
上手くいくというなら…それでいい…

そんな私の気持ちを知ってか  
知らずか…調子に乗った社長は  
今度は私の性を指でかき回します  
こんなことで何故私は簡単に  
氣をやってしまうのでしょうか…  
情けなくて恥ずかしくて…

私の胸にしゃぶりつき、乳首だけで  
イかせようとすると、何人かの方が感嘆の  
声をあげたのが聞こえました…

その方と目が合って  
しまい死んでしまいたい  
くらい恥ずかしかったです

社長だけではなく、殿方はやはり胸が好き  
なのだと…見つめるその方の目がそう  
物語っていました。私には理解ができません…

屑田社長が1回の行為で満足するはずがありません  
私の両足を抱えあげると再び背後から挿入されます

結合部を見せつけるようなこの体位…  
いつもは鏡の前で私に見せながらするためのものでしたが  
今は大勢のスタッフの方が見ています

あまりの恥ずかしさに…もうやめてくださいと社長に  
懇願しますが許してくれるわけがありません  
当然です…この方はそうやって羞恥心に悶える  
私を見て楽しんでいるのですから…

汚らしい逸物が激しく出し入れされる感覚が  
背中を走って脳をびりびりと刺激します…こんなのが  
気持ちいいわけがない…そう自分に言い聞かせていますが  
私も…何度も社長と肌を重ねてしまっ…  
わかってしまっているのですこれは紛れもなく「快楽」というものだ…  
でも、そうだとしたら私は…そんなの嫌…  
そんなはしたない自分なんて認めたくない…



ダメです…今は接吻だけは……  
私の戸惑いを見きったかのように社長の舌が  
入り込んで来て私の口の中を這い回ります

下腹を突かれながらの接吻だけは……♡  
これをされると私は頭がぼうつとして  
何も考えられなくなる……♡

憎い憎い最低な人なのに……社長に全てを捧げて  
しまいたくなる……こんなこと……何かの間違いです……

お互いの口に舌を何度も出し入れして  
唾液を交換すると、見られていることも  
忘れて求めあってしま……  
そんなつもりなどないのに……  
はしたない接吻を見せつけるように  
何度も何度も……  
気が付けば社長の首に纏わりついて快楽を  
ねだってしまっていました

そんないやらしい私に社長は  
気を良くしたのでしよう

ちぎれそうな程強くお尻を掴むと  
更に激しく逸物を出し入れしてきて……

いやらしい結合部を強調するような  
体勢に、先ほどまで見ている皆さんの  
ことを忘れていた私は戸惑いて  
思わず大きな声をあげてしまいます

「お前は誰のモンや？」

ああ……この方は何故こんなにも  
いじわるなのでしょう……

誰がどう見ても私は社長の  
いいなりのふしだらな女です

でもそれでも尚、この方は  
人前で私にそれを言わせたたくて  
仕方ないのです……そして  
それを言う私を犯して……  
性欲と支配欲を満たしたいのです

私に従う以外の選択はありません  
765プロ……仲間の皆さん……  
そして……プロデューサー……

私の大切な人達を守れるなら……  
何度だってこの最低な方のために破廉恥な女に  
なってみせます……大きな声で私は自分が屑田社長の  
モノであると叫び、社長が喜ぶように激しく喘ぎました



これは絶対に本心じゃない  
私はこんな行為なんて望んでいない

自分にそう言い聞かせる私に  
社長は覆い被さって、またあの腰の動きを…

ああプロデューサー…誰か…  
助けて…このままでは私は…  
この方の全てを受け入れてしまいます

嫌で嫌で仕方ないのにどうしようもなく  
気持ち良い…

意地悪な言動も、見せつける行為も  
全てこうなると社長に  
見透かされていたようで  
怖い…自分が自分でなくなってしまうように…

ひと際強く腰を叩きつけると  
私の中に社長の遺伝子がびちゃびちゃと  
流れ込んできて…その快楽に頭がびりびりと  
刺激されて、私ははしたなく声をあげて  
しまいました…

そんなみっともない私を撮影しろと  
社長はスタッフの方々に命令しました

いつもは社長自身がする、中に出した女の子の  
撮影…その悪趣味な行為を人にさせようと  
いうのです…なんという発想でしょうか…  
この方はおよそ人の心や思いやりなどというものは、  
無縁なのでしょう…

でも私の味方はもはや誰も残っていません  
スタッフさん達は我先にとスマホやカメラを  
私に向け、全員が写真屋動画を撮り始めます

この後、こんな姿を見られて…水着の撮影を  
するのでしょうか…？  
でも…与えられた仕事なら頑張らないと…

そして社長はまた私を恥ずかしめて行為を強要  
するのでしよう…しゃぶっている逸物がまだ…  
雄々しく、硬く反り返っているから…

私にはもうわかってしまうのです  
この方の性欲がこの程度で満たされるわけがない

私から垂れる大量の子種にスタッフの方々から感嘆の声が上がります  
ああ…お願いだから見ないで…私のファンだと言ってくださった方が  
必死でカメラを構えている姿が見えて、いいようもない  
哀しみに私は涙を流しました